



## フェアプレーの精神

次長 目崎 淳

早いもので「令和4年」を迎えて一ヶ月が経ちました。一年の中で一番短い三学期を三分の一終えたこととなります。三学期は子どもたちにとって「まとめの時期」であり、そして次の学年へ「進級準備」の大事な時期でもあります。

さて、令和4年2月には、北京オリンピック・パラリンピックが開催されます。東京オリンピック・パラリンピックでアスリートが活躍し、感動の渦を起こしたことは、記憶に新しいことと思います。フェアプレーという言葉は、たくさんの人が耳にしたのではないのでしょうか。

スポーツの競技大会では「フェアプレーの精神」というフレーズが用いられることも多くあります。オリンピズムの一つに「フェアプレーとは、『(1)運動競技で、正々堂々たるふるまい。(2)公明正大な行為・態度。(広辞苑第六版より)』です。スポーツにはルールがあり、そのルールを守ることによってアスリートが互いに競い合い、高め合う。」とあります。そして、元陸上競技選手の増田明美さんはこう言っています。「いつでもお天道様が見ていることを忘れずに、競技相手を敬い、自分自身が恥ずかしくないプレーをすること。人として成長するために日々精進し、トレーニングに励む事が大切で、勝ち負けだけがすべてではない。結果はあとからついてくるものだ。」フェアプレーは、スポーツを通じて身に付けることができる、社会を円滑に動かしていく力であるといえます。つまり、自分を取り巻くさまざまな事物を「尊重する」という理念を大切にしているのです。ですので、この精神はスポーツに限られたことではなく、日常生活においても子どもたちの社会規範の育成に有効であると考えます。

学校生活では、どうでしょうか。鎌倉女子大学初等部には、「初等部のやくそく」(ルール)があります。「校外においてはいつも『わたくしは学園の代表者』という自覚を持って行動できるようにする」

「学習に関係のないものはもってこない」その他にも「やくそく」がたくさんあります。本来、「やくそく」は少ないほうがよいと考えます。しかし、「やくそく」を守らない人がいると、新しい「やくそく」

を作らなければならなくなり、さらに、「やくそく」が増えていくのです。「やくそく」を守らない人が一人でもいると、皆の足をひっぱってしまうことになるのです。では、なぜ「やくそく」を守らなければならないのでしょうか。それは、子どもたちが学校生活を安全・安心に過ごしていくために必要だからです。だから、きちんと「やくそく」を定める必要があるのです。

裏面でもふれますが、2月の月訓は「礼に始まり礼に終わる」です。『文部科学省 学習指導要領 特別の教科 道徳』[礼儀]の中に次のような記述があります。(以下、下線部は引用)

[第1学年及び第2学年]

気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心がけて、明るく接すること。

[第3学年及び第4学年]

礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。

[第5学年及び第6学年]

時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。

これらを自分流に言い換えると、「親や先生をはじめ、身の回りにいる大人に対して尊敬の気持ちをもって接することができるかな」「あいさつや言葉遣いはどうかな。習い事の先生にはできているけれど、日常生活ではちょっとなあ…などということはないかな」とふり返ることが大切だと思います。

初等部では、学校生活のすべての場面で、それぞれの発達段階にふさわしい、きめ細やかな指導を行っています。体験的・実践的学習(活動)や年間行事を通して、思いやりや感謝の心、集団生活のルールやマナーを学びます。子どもたちが、いつでも・どこでも・どんなときにもその心を表せるよう、初等部一丸となって引き続き取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染者数は未だ高止まりしており、引き続き対策の徹底を図っていく必要があります。初等部においても現在2学級を学級閉鎖しています。登校前のご家庭での検温をはじめとするお子様の健康観察を十分に行っていただくなど、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。